

「クビアカツヤカミキリ」対策の強化

和歌山県資料

資料12

本県の現状

- 令和元年に初めて被害が発生し、その後**右肩上りで増加**している
- 観光名所等の桜を枯死させる**等景観を悪化させる他、**ももやうめ等果樹農業にも甚大な被害**を及ぼしている
《《三重県、大阪府、兵庫県、奈良県、徳島県含む、全国 1 3 都府県に被害拡大》》

本県の取組

- 試験研究、発生調査・指導、啓発
- 県単独事業で被害樹の伐採、抜根、樹幹注入等の経費に対する支援を実施



＜成虫＞



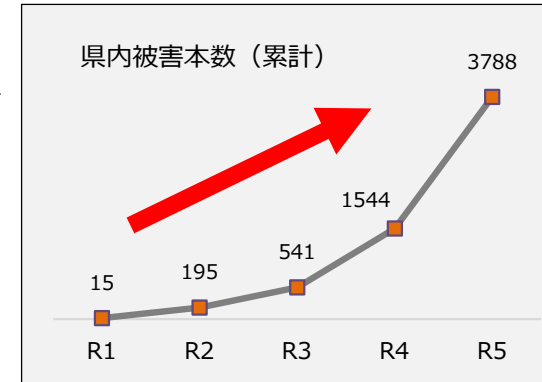
＜幼虫＞



＜被害樹・フラス放出＞



＜被害樹・ネット被覆＞



課 題

- ・さくらの防除対策に活用している現行の「**特定外来生物防除等対策事業**」では、交付決定等に時間を要し、**速やかな防除対策に取り掛かれない**
- ・**さくらなど樹高の高い被害樹の伐採・処分**には、高所作業車等が必要となり**多額の費用がかかる**ことから財政負担が強いられる
- ・県の研究機関は国の研究機関等と連携し、生態解明や防除対策に関する研究に取り組んでいるが、**現時点では抜本的な対策は確立されていない**
- ・うめやもも等果樹農業に被害がまん延すると、**被害拡大防止と経営維持の取組を一体的に行う必要**あり

提 案

- ・「特定外来生物防除等対策事業」について、**4月からの防除対策が可能となるよう交付決定等を速やかに行い、補助率の嵩上げを行う**とともに、必要な予算を十分に確保すること
- ・環境省、農林水産省等の関係省庁の連携を強化し、共通した方針をもとに**実効性のある防除体系を早期に確立すること**
- ・果樹農業等において**被害拡大防止及び経営維持対策に必要な予算を十分に確保すること**